

パターン認識・メディア理解の グランドチャレンジ

小特集編集にあたって

編集チームリーダー 荒川賢一

人間の持つ外界の知覚能力は、私たちが日常、無意識にその恩恵に浴しているもので気付かないことも多いが、実に素晴らしいものである。その能力をいかに計算機上に実現するか、ないしは、それを応用し情報処理システムやサービスをどのように実現するかを目標とするパターン認識・メディア理解の研究は、情報処理技術の発展とともに進展してきた。しかし、人間の能力を全般的に代替する、納得のいくシステムはいまだ実現されていない。本小特集は、パターン認識・メディア理解研究専門委員会のグランドチャレンジ・ワーキンググループ(GCWG)において、平成19年7月から平成20年12月にかけて検討し議論されたパターン認識及び画像などのメディアの理解に関する過去の研究の総括、そして未来への提言をグランドチャレンジというキーワードのもとにまとめたものである。

本小特集は、以下の五つの記事より構成されている。最初にGCWG主査である馬場口先生と鷺見氏により「今なぜグランドチャレンジか」というテーマで、グランドチャレンジを検討する意義について述べて頂いた。

次に、この検討にさかのぼること15～6年前に先駆けとして、この研究分野の重要な課題をまとめ、方向性を議論された小川先生、大田先生に「良い問題を作るために」と題して前回の検討の進め方の基本的なスタンスをまとめて頂いた。これは、パターン認識・メディア理解といった分野に限定されない普遍的な話題であろう。

三つ目の記事では、前回の検討からどのようにこの分

野の研究が進んできたかを日浦先生、佐藤洋一先生に「パターン認識・メディア理解15年の進歩」としてまとめて頂いた。これを読むことによって、情報処理技術の進展によりこの15年間に解決された課題を総合的に理解することができる。

四つ目の記事は「パターン認識・メディア理解の問題分析」というテーマで、内田先生、佐藤真一先生、鷺見氏、福井先生に、パターン認識・メディア理解の分野において現状で解決されず残されている課題をまとめて頂いた。

最後にGCWGのメンバー全員で、上記の検討を踏まえた上でのグランドチャレンジに足るべき課題を「パターン認識・メディア理解の10大チャレンジテーマ」として御提示頂いた。

ここで提示されたグランドチャレンジとして残された課題はどれも壮大であり、性能を定量的に評価するとすれば、恐らく解決にはまだ相当の年月がかかる、もしくは、根本的には解決の糸口すら見つかっていない。すなわち「逃げ水」のような課題である。この解決には、ブレイクスルーを期待しなければならないと思われる。ただ小川先生、大田先生の記事にあるように「まずは良い問題の設定」がなければ解決に向けた進展は始まらない。その意味では、この分野の専門家の知見によって、大きな第一歩がここに記されたといえる。

最後になったが、多忙な中、本小特集の各記事の内容を真摯に御検討頂き、また御執筆頂いたパターン認識・メディア理解研究専門委員会の皆様、そして、この企画を進める上で御尽力頂いた小特集編集チーム及び学会事務局の皆様に感謝の意を表したい。

小特集編集チーム	荒川 賢一	苗村 昌秀	大西 正輝	麻生 英樹	生駒 洋子	井上 晃
	内田 誠一	櫻井 茂明	高野 光司	豊泉 洋	内藤 正樹	福田 和真
	古家 賢一	堀田 悦伸	湯川 高志	横井謙太郎	芳澤 伸一	吉田 昌司